

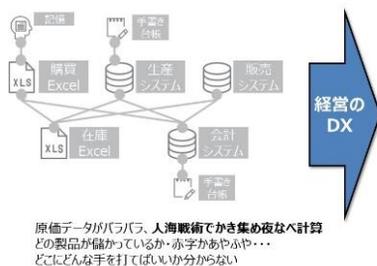
中小製造業向け共通プラットフォーム構築への参画と 二酸化炭素排出量可視化への取組み

マツモトプレジジョン株式会社 (福島県喜多方市)

製造業 資本金7,000万円 従業員数148名

1948年東京都世田谷区で創業し、1973年に喜多方市に移転。空圧制御部品や自動車エンジン部品等の精密機械部品加工を行う。

個別最適化(導入前)



全社最適化(導入後)



クラウドERPを核とした中小製造業向け共通プラットフォーム導入により、販売・購買・生産・財務会計・管理会計を1つの基幹システムに集約し、DX化の推進と業務効率化を実施！

さらに製品別の排出量を可視化するなどGXに向けた取組を実施

取組の背景は？

社内システムとして、表計算ソフトやデータベースソフトによる自社開発システム、市販の会計ソフトを使用していたが、データのやり取りに工数が掛かっており、必要な情報を必要な時に得ることが困難であった。また、パッケージソフトやMicrosoft Accessのサポート終了時期が近づいてきており、今後の社内システムの検討を迫られていた。

システムの検討が暗礁に乗り上げていた頃、会津大学・SAPジャパン株式会社・アクセンチュア株式会社を中心として、共通プラットフォーム「CMEs」の構想が始まり、当該プロジェクトに参画。CMEsのスタートアップ企業として新システムへの開発協力と導入を開始した。

※CMEs : Connected Manufacturing Enterprisesの略で、クラウドERP(SAP社 HANA S/4)を核にした中小製造業向け共通プラットフォーム

具体的な取組内容は？

従来社内管理用として使用していたシステムは、自社開発ソフト、市販ソフトが混在しており、処理の度にデータ移行に労力が掛かり、製品原価など必要な情報が容易に取得できない状態であった。この中で、社内のDX化を推進するとともに、社内システムをCMEsに移行することで、データの共通化が図られ、即時の製品原価算出が可能となった。

一方で、共通プラットフォームならではの制約があり、従来のシステムをそのまま移行する事は不可能であった。この中で「既製服に体を合わせる」を合言葉に、無駄な業務の見直しや移行するデータの取捨選択・スリム化を併せて実施することで、抜本的な業務効率化を実現した。

さらに、CMEs導入に伴い整備された生産に関するデータを基に、経産省カーボンフットプリントガイドラインに沿って二酸化炭素排出量を算出する仕組みを構築し、実証を行った。

一例として、カーボンニュートラルの電力使用の効果により、製品1個当たり2.437kgの二酸化炭素が削減されることが示された。また、排出量の可視化により、今後の削減方針を明確化することが出来た。

効果は？

導入年度に売上総利益30%・営業利益率3%改善、導入2年目に全従業員の基本給与4%上乗せを実施。新システムがベースとしているERPの機能・データを活用し、経産省のガイドラインに基づく二酸化炭素排出量算出の仕組みを構築し、製品毎の排出量を明確にすることが出来るようになった。